平成３０年度第３回ふじさわ男女共同参画プラン推進協議会

２０１９年2月２６日

【会長】　　それでは、議題１に入る前に、前回会議で回答が持ち越しとなった質問について、事務局からお願いします。

【事務局】　　それでは、私のほうから説明をさせていただきたいと思います。

前回の第２回の会議で、ふじさわ男女共同参画プラン 2020 の進行管理に関して報告をさせていただいたんですけれども、この進捗状況につきまして、市のほうではどのように考えているのかというご質問がございました。今回の男女共同参画プランでは、プランが目指すところの一人一人の人間を尊重し、男女が共同してつくる豊かな社会の実現に向けて、その進行管理が着実に進められているというふうに捉えております。平成 29 年度の進行管理におきましては、プランに掲げられた事業の、「おおむね達成」以上が全体の 98%を占めていること、また、各事業課で男女共同参画を推進していくというものが定着してきているのかなというふうには考えております。

また、「事業の達成ができなかった」とされる２％につきましても、こちらは市民からの申し出が前年度を下回った、あるいは、啓発を進めて資料の増減に反映しづらい分野であるということもございますし、例えば、天候による事業が実施できなかったということもございますので、取り組みが足りていないということではないのかなと考えているところでございます。ただ、プランに掲載された事業がこれまで低下しているということもございますので、今後、プランに事業が掲載されている課からなる男女共同参画推進会議の幹事会がございますので、こちらで今後、さらに共同参画の重要性といいますか、そういったものを周知していくなど、男女共同参画社会の啓発というものを所管担当と特に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【会長】　　ありがとうございました。いかがでしょうか。さらに質問とかご意見とか、もしあれば。感想、どうでしょう。おおむね良好という、98%「おおむね達成」というのは、計画としては進んでいるのかなと思いますけれども。

いかがですか。

私、１つだけ。今のお話と直接関係あることではないんですけれども、一般的な男女共同参画の推進、施策の推進という意味なので、ここで話すのがいいのか、６時半からのほ

うがいいか、ちょっと迷うところはあるんですけれども、６時半のほうが行けないものですから、そのことも含めて、今回の市民意識調査にしても、プランの全体を見ての感想なんですが、もしかして一番最初のときに申し上げたかと思うんですけれども、男女共同参画の施策って難しいんですよ。というのは、ほかの施策であれば、施策の対象があり、目的があり、そして推進と直線的に、ないしは、領域が区切られてくると思うんですけれども、男女共同参画はとても幅が広いので、そういう意味では、進行管理を含めて他部署へお願い、直接はできずにお願いするということも含めて、とても難しい施策だなと思うんですが、そのときに施策の内容２つを分けて考える必要があって、１つは、施策体系の問題もあれば、男女と言うかどうか別ですけれども、それも含んでいるということにして、個別施策に関わる部分と、それから、包括問題というふうに言うところではいいますし、アメリカ型ではジェンダー・メインストリームといいますけれども、市の施策の全ての面においてジェンダーの観点で施策が進められてるかどうか、これは別のことなので、これをもうちょっと立体的な形で考えていくと、男女共同参画というのが全体として推進しやすいんじゃないかなと思います。

難しいのは後者のほうだと思いますので、先ほども申し上げたように、自分の課の施策じゃないところも含めて、あるいは、普通は男女共同の施策じゃないと思われているところまでやらなきゃいけないというところが非常に難しいかと思いますが、例えば、報告書をまとめたり、そういうときにはこの２つはちょっと区別して、分析、ないしは評価なさると、すごくいいと思いますので、ぜひそこはお願いしたいと思っています。

全くの感想ですけれども、よろしくお願いします。

よろしいでしょうか。今度は分厚いほうへチャレンジということであります。それでは、議題（１）の市民意識調査について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】　　それでは、事務局の高田から説明をさせていただきます。

今回、市民意識調査についてということですけれども、前回のプラン協議会、第２回プラン協議会で、内容について皆様からご意見をいただいたかと思います。いただいたものを最終的に取りまとめて、確定したもので、手元にある資料３の調査を行っております。こちらは昨年 11 月 12 日から 11 月 30 日までを回収期間といたしまして、市民意識調査を実施いたしました。その結果の報告書が資料１でございます。藤沢市男女共同参画に関する市民意識調査報告書でございます。

皆様にお渡しした資料は、調査会社から提出されたたたき台を専門部会員の方々にざっと目を通していただいた中で、修正が少し入った状態になっております。まず、私が直し

た状態をバッと見ても、幾つか誤字等もありますので、そういったところを順番に見ていただければと考えております。今回の会議でいただいた意見を踏まえまして、また、業者とのやり取りを含めて、３月末に納品という形になっておりますので、そこに向けて修正を進めていくところでございます。

あわせて、資料２として、報告書の概要版も配付させていただいております。こちらの掲載内容は、資料１からの抜粋という形になってまいりますので、そちらは修正というのは、資料１の修正をそのまま反映させるような形になっております。そちらで見ていただくならば、概要に載せるものはこれでいいのか、ほかに載せるものはないのかということでご検討いただければと考えております。

今回は調査結果に少し触れてまいりますと、有効回収数というところでいきますと、3,000 配った中で 1,149 件の回収となっておりまして、回収率は 38.3%、前回の調査からいきますと、22 件の増、0.7%の増という形で微増しております。年代別の回収率を私どものほうで手作業で確認をしたところでございますが、それは資料がないものになるんですけれども、こちらを見ていきますと、60 歳から 79 歳までの回収率というのが５割から６割、しっかり見る時間があるのかなということで、非常に高いところでございました。79 歳までが高いというのは、前回までの調査では、69 歳までの斜行をつけて調査をしていたことを考えると、その１つ上の代というか、そこでも回収率が高いというのは、全体的には少し微増の色合いになったのかなと考えております。

逆に、18 歳から 29 歳まで、若年層の回収率は２割から３割程度、かなり低い状態にございまして、若年層の関心の低さ、男女共同に関する　　なのか、それとも、こういった調査というところに関してなのか、意識というところが、関心の低さがあるのかなと感じました。

調査結果の主なところは、そういった内容でございます。本日はこの報告書案について、中のグラフ等を見ていただきながら、こうした集計結果もあったほうがいいんじゃないかとか、あるいは、誤字脱字といった部分についてご意見をいただければと考えております。

調査結果の内容から読み取れる部分、検討とかそういった部分については、来年度以降、平成 32 年度、再来年度になってきますけれども、32 年度にプラン改定が、新しいプランの策定がございますので、そちらに向けて来年度、平成 31 年度に検討という形で課題とかそういうものの洗い出しをやってまいりますので、そちらのほうでお話をしていければと思っております。今回の調査結果については、たくさん言いたいことはあるかもしれないで

すけれども、その中身というよりも、体裁とかそういったところでご意見をいただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局からの説明は以上でございます。

【会長】　ありがとうございました。それでは、前から順番にということになるかと思いますけれども、前から順番ということになりますと、最初の集計等、今の話になるかと思いますが、これはいいですかね。

１個だけ、いいですかねとか言いながら聞いてしまうんですけど、３割８分ですよね。これは大体、ほかもこんな感じですか。特に私たちのが低いとか、そういうことはないですか。

【事務局】　ほかの市町村もこれくらいかなというところです。もう少し上げていきたいという気持ちはありますけれども。

【会長】　藤沢市のほかのアンケートはどうですか。

【事務局】　ほかのアンケートというところは、すみません、具体の数字は持っていないです。

【会長】　ちょっと気になるところではありました。

多岐にわたりますので、中身のほうに入っていきたいと思います。

【宮川委員】　すみません、１つよろしいですか。最初の調査方法に関連してなんですけれども、無作為で男女3,000名抽出していますけれども、返ってきたものに関しては、どちらかというとご高齢の方のほうが回収率がいいということなんですが、実際に配布されているのは、無作為で抽出した結果、世代ごとの差、あるいは、男女の差はないように配布はされているということでよろしいんでしょうか。

【事務局】　配布のところ、年代別というところはピックアップをしているんですが、男女の別の割合は拾っていないところです。手元にはまだ資料として、ダイの　　拾ったかということが残っておりますので、そちらのほうを確認すれば、具体な男女それぞれ、何パーセントがとれたかというところはわかるかと思いますが。

【宮川委員】　配布の男女は、どこに書いてありますか。

【事務局】　配布のものは書いていなくて、回収。

【宮川委員】　回収のものについてはあるんですけれども、配布がランダムにきちんと分布していたかどうかは確認できればと思います。

【事務局】　今、手元にある資料ではちょっとわからないので、後日確認させていただいて、お届けできればと思います。

【宮川委員】　　これは調査方法のところに、こういうものって書くものでしょうか。

【片岡委員】　　前年のは少なくとも書いてないんですね。例年からいくと、書かない方向で来たんですけれども、今、宮川委員がおっしゃっていて、逆に気になったのは、今、事務局が年代別ごとに何人というふうに指定して抽出なさったとおっしゃった？

【事務局】　　していません。

【片岡委員】　　していない。要するに、藤沢市の人口の構成があると思うんです。ですから、そのとおりにナチュラルになっていれば、ランダムに最初の基数、3,000 人がなっていれば、それはそれでいいと思うんですね。だから、現実的に今、人口が高齢者のほうが高くなっているじゃないですか。かつ、回収率もそちらのほうが高いから、結果として、65 歳以上というのがかなり高くなっているようなんですけれども、それは致し方ないかなと。

【会長】　　要するに、過剰代表になってしまう。

【片岡委員】　　でも、少なくとも最初に公平にやれば、結果がある程度偏ってしまってもそれは仕方がない、こちらがコントロールのしようのない範囲じゃないかと思うんですけれども。

【会長】　　全体の母数の大きさにもよりますね、統計的に言うとね。なので、ちょっとあれですけど。

【　　委員】　　配布しても、返ってきたのは強制できないわけだから、ランダムに返ってきちゃうと、配ったときはならして配っても、戻るときが年代ごとに上手に返ってくればいいけど、今あったように、高齢のほうが高くて、若い人は２割くらいだという話は、当たり前かなというふうに思うので、そこのところは配るときは難しいかなと。出した人が必ず返してくれるということであれば、年代別とか男女別とかとやってもいいんだけど、そこら辺をうたうというのは非常に難しいかなと思っています。

【会長】　　多分、問題は２つあって、今回の報告書に、無作為抽出というだけじゃなくて、年代差、性差も含めて数字を書くかどうかという問題、それから、もうやってしまったことだからどうしようもないので、次回まで含めてもうちょっと、例えば、人口比にしてみるとか、あるいは、もっと極端なことを言ったら、歩合、歩留りも考えて配布するようにするとか、それは今度のことに向けてだと思うんですけれども、問題はちょっと違うかと思うんですけど、まず最初、調査方法と回収状況というところをもう少し書くかどうかという点については、いかがですか。

【片岡委員】　　片岡です。ここの３ページの２のところには書かないで、もう少し先に行った 17 ページのところにグラフがあるんですけれども、そこに参考として、例えば、藤沢市全体の男女比、あるいは、年齢構成の割合というのをここで参考として入れるという方法がいいのではないかなと思いました。

【事務局】　　それは、今回の調査というわけではなくて、藤沢市の全体としてのということですね。

【片岡委員】　　そうそう。藤沢市の構成。

【　　委員】　　よろしいですか。私も今、片岡委員がおっしゃったように、そのように入れるのがいいんじゃないかと思います。結局、藤沢市の人口構成の中で、いわゆる構成に応じた形で基本は出されて、結果として返ってくるかどうかというのは別の問題だと思います。出されるかどうかは意識の問題ですから。ですので、配布するに当たっては、年齢その他、比率で出されてくるのが一番ベターかなと私は思います。

【会長】　　そうしたら、とりあえず今回の報告書については、藤沢市の人口構成の状況について、簡単にここに参考という形で載せるということでよろしいですかね。

　ありがとうございます。よろしくお願いします。

　もう一つの、やっぱりこうあるべきだの話は、どうですか。少しご意見を伺って、結論はもうちょっと後でもいいように思いますが、いかがでしょうか。今のお話もそうだと思うんですけれども。

【　　委員】　　よろしいですか。内閣府などは配布の数値、回収の数値を年代別でやっているのかどうか、他の統計の知識がないので、そういうところはどうなのかというのが１つ。

　一般的に、全く素人から見ると、回収状況って書いてあるんですけれども、「回収状況」という題で回収方式、郵便物でやり取りしたということはあまりやらないんですが、配布を 3,000 通した。その配布をしたときに無作為抽出したら男女がどうだったとか、それの基本情報は知りたいかなとは思いました。その後、いろいろ数値を見るにつけ、無作為でやってみたら男女比がほとんど同じだったのかみたいなこととか、年代別までは要らなくても、読む側からは、あ、そういえば、これ抜けてるなという印象が今の議論でしたことはしましたので、今後検討してもいいのかも。そのときにそこまでやり切っているような、クロス集計をするという意味ではないと思うんですけれども、藤沢市が今回の調査にあたって参考にしたほかの調査がどんな手法をとっているかは参考にしてもいいかなと思いました。

【事務局】　今、私が抽出した内容のものを頭の中で思い出しているところですが、たしかですが、男女の性別が載っていなかったような気がするんですね。完全無作為抽出にしているので、男女を載せる必要がないという、余計な情報を載せていない可能性があります。そうすると、名前で判断するような手間とかを考えると、現実的ではないかなと思います。

【宮川委員】　そうすると、年齢なんかもわからないわけですね。

【事務局】　年齢だけはわかります。

【宮川委員】　年齢はわかるんだ。なぜですか。

【事務局】　年齢は載せていただいています。ただ、男女の別はたしか載っていなかったような気がします。ちょっと確認をしないと、印象として残っていないので。

【会長】　今回の調査では、「男性」と「女性」と「その他」にしたんですか。

【事務局】　そうですね。回収のほうの書いていただいたのと同じ。配布時点のものだったような記憶があります。

【　委員】　今、小学校も名簿は男女別じゃなくて、あいうえお順という形になるので、今言われたように、名簿をつくるとき、多分そういう状況があって、男女が分かれていないのかなという気がします。そこら辺、男女別というのは難しいのかも。

【事務局】　出してもらうときに、出してくれという形で出していれば出てくるものだと、住民登録していれば選ばざるを得ないですから、出てくるものかと思うんですけれども、それを入れていたかどうかというのが、ちょっとこの場で自信がないです。

【宮川委員】　特にこれが男女共同参画に関する調査だということもありまして、例えば、17ページの基本属性のところに、女性が58.5%、男性が40.3%、回収の内訳がこうですよというのはあるのですけれども、実は、男性のうち何パーセントが回答したか、女性のうち何パーセントが回答したかというのはわかっていないわけですよね。そういうことも考えると、実は、この男女比を見ただけでは、男女共同参画に男性のほうが関心が高いのか、女性のほうが関心が高いのかということは言えないわけですよね。これは、男女比が半々だと仮定したら、女性のほうが少し関心がありますよということが見てとれるわけですけれども、元の母数がわかるということは大事なことかと思いますので、次回以降の調査では、そういうこともわかるようにしていただければよろしいかなと私は思います。

【会長】　いかがですかね。

【片岡委員】　次回以降ね。

【　　委員】　　そういう意味では、先ほど副会長が言われたように、抽出も含めて、年代はどうするんだということを含めて考えていかないといけない。なぜかというと、当然、母数でいうと、結果的に答えやすい人は答えやすいし、当然、若い人は関心が薄いですから難しいので、そこの部分については、もう少しきっちり次回と思うのと、最初の質問のほうをずっと、事前にも見たんですけれども、これをどうやって使うかになると思うんです。基本的には、男女共同参画についてどういう意識を持っているかということだと思うんですけれども、そこも含めて、もう少し考えればよかったなと、私自身も今、反省しています。

【会長】　　ありがとうございます。人口比に合わせて抽出の数を想定してやるというのは、あまり聞いたことがないので、すごく新しいかもと思って。なかなか難しくて、アンケートをつくったときにも検討したと思いますけれども、独自にすごく新しいことをやるのはすばらしくいいんですけれども、そうすると、ほかと比較が難しくなるということもあって、そのあたりのバランスもありますので、今、お出しくださった論点については、次回にはじっくり考える。あるいは、今、宮川委員が言ってくださったように、これをするにしても男女はわかったほうがいいという意見もありますので、そのあたりのことは次回に向けてということにいたしましょうか。

【宮川委員】　　ちょっとだけつけ加えますと、もちろん、結果としてはどうしても偏ってしまうのですけれども、配布したときの男女比ですとか年齢構成比がわかっていれば、その後、分析の過程で調整をかけた分析をするということもまた可能になってくるかと思います。そういう余地を残すという意味でも、配布したデータというのは、もう少し細かくとっておけるとよいかなと思いました。

【会長】　　ありがとうございました。

【片岡委員】　　ちなみに、うすら覚えで申しわけないですけれども、たしか男女比、藤沢市の人口、女性のほうがやや多いんでしたよね。「やや」ですよね。だから、そんなにこの回収とは遠く離れていないぐらいの数字じゃないかと思いますので、今回の場合は、基数となっているもともとの調査した人口比、男女比と回答比が、そんなに大きな差はないだろうという感じです。

【会長】　　ありがとうございます。よろしいでしょうか。

すばらしいと思います。なかなかそこまで検討しないかなと思うので、ぜひぜひ次回に向けて事務局を含めよろしくお願いします。

２章に入っていきましょうか。調査の中身のところ。

【片岡委員】　　すみません、５ページ、調査の概要をやっていただけますか。

【会長】　　ちょっと待ってください。それは概要の記述についてということですか。

【片岡委員】　　今、３ページ、４ページについて検討されたと思うんですけれども、５ページからある、ちょっと厚いほうの概要。

【会長】　　概要？　概要は薄いほう。

【片岡委員】　　いや、違います。厚いほうの中の概要です。

【会長】　　報告書の５ページ。いいですよ。

【片岡委員】　　お願いします。ここの部分ですけれども、ここが調査全体の結果を要約した部分だと思うんですね。おそらく時間のない方は、ここだけごらんになるという重要な部分だと思うんですけれども、こちらの書き方が、ただ単に実際の調査の数字、後ろの部分の数字を前に持ってきていて、どういう状況であるかということがきちんと解説されていないと感じます。これが前回の調査報告書で、おそらく同じコンサルがなさっているんですけれども、せめて前回のを参考に、日本語的にも考察をきちんとこの程度には入れてくださるようにお願いを申し上げたい。

細かく言っていくとキリがないのですが、前回との経年変化が幾つかの部分で見られます。例えば、６ページの上のほうに、家庭における役割分担の一番最後のほうで、「食事の支度」は「主に妻」37.8％に偏りが見られ、「生活費を得る」は「主に夫」38.0％とあるのですが、前回は「食事の支度」はもっと高かったんですね。「主に妻」が 41.3％、「主に夫」が 44.8％なんです。それから、仕事、職業を持っている率というのも、年齢層が今回、高い年齢層を加えたこともあってかなり下がっている。そうしたことを含めて、男女共同的な考察も含めて、きちんとした日本語にしていただきたいなと思いました。

【会長】　　実は私は同じ感想を持っていて、最初に、概要版、中身の部分をやりましょうと申し上げたので、ちょっとその話は後にしたほうがいいかなと思ったものですから、でも、同じ感想を持ちました。要するに、私は前回のものはちゃんと見てなくて申しわけないですけれども、概要版をつくるということの意味ですね。ここでやっている５、６ページのものにグラフを加えたものが大体概要版という理解でいいですよね。この概要版はどういうコンセプトでつくられたのかというのを伺ってみなければと思ったんですけれども、その点はいかがでしょうか。

【事務局】　　概要版ですけれども、一番大きな要素としては、この報告書、予算的な部分も大きなことですが、つくれる数に限りがあるということと、配布できる箇所が限られてしまうということだと思います。センターに数冊置けるかどうかというところ、図書館

ですとかそういったところ、　　見られる場所を考えていますけれども、そういったところではない部分、もっとたくさんのところに配っていこうというときに、この容量のものを置いてもらうのも難しいとなってくると、ある程度、要点をまとめたものを配架していただいたりとか、そういった形でより周知を進めていくということが目的の部分です。

【会長】　　そうですよね。だとすると、片岡委員がおっしゃったように、もうちょっと意見というか、結論というか、分析というか、それがあったほうがいいと私も思います。国との比較をしているところもあるし、経年変化しているところもあるし、藤沢の特性みたいなものも幾つか触れられていますので、そういうのをむしろ書いたほうがよくて、細かい数字は、あったほうがいいけれども、載せられないならなくてもいいぐらいで、全体としてこうなんだというのが各柱ごとに、項目ごとにないと、逆に見づらいです。もしかしたら、この報告書の概要版のところは全部数字を入れてということになると思うんですね、報告書の構成からいって。だったら、これとこれが違うということになってしまうので、そのことの問題があるかと思いますので、気になるところではあるんですけれども。

【　　委員】　　僕も考察がないのが、ただ調査しただけで、そこから見えるものというのがないのがちょっと不思議ではあったんですが、こういう調査のまとめでわからないですが、５ページの真ん中あたり、（３）の下２行のところから始まるんですが、「性別にみると」という、「性別でみると」ではないのかなと。表現として、これは調査のときにこういう表現をするのか。ずっと中を読むと、くせなんだろうかと思って、「性別にみると」というのが気になって、これからずっと出てくる部分であることと、それから、５ページの一番上のところ、「男女行動参画」となっているんですが。

【　　委員】　　あ、ほんとだ。これは間違ってますね。

【　　委員】　　１行目の。

【片岡委員】　　「Ａ　男女の平等について」の下。

【　　委員】　　やっぱり考察が欲しいなと思ったのは、今、千葉の４年生の問題で、親と子のしつけの問題、しつけと称して虐待が起こっているということが、千葉だけじゃなくていろんな事例があって、今、本当に増えていて、大変なときなので、そこら辺も踏まえながら、しつけの部分について、考察を入れていかないと、ただ調査をしただけということになってしまうのかなというのがあちこちにあるのかなと思います。

【会長】　　ありがとうございました。どの部分を載せるか、どこを分析するのか、考察といってもデータの分析ですから、施策提言をするという意味での考察とはちょっと違っていいと思うんですが、どの部分をというか、ちょっと濃淡をつけていったらいいんじゃ

ないかと思いますので、中身を見ながら、ここはもっとピックアップみたいなところがあったら、委員の皆様からも、ここを大きく太字で書いてみたいな形で言っていただくといいんじゃないかなと思います。

いかがでしょうか。次、進めてよろしいでしょうか。

では、A、B、Cという順番にいきたいと思います。まず、A、男女の平等について、報告書でいうと20ページ、概要版でいうと２ページから３ページにかけてになるかと思います。この部分についてはいかがでしょうか。

国との比較はありますけれども、全体調査との比較がなかったんじゃないでしょうか。33ページの差替えというのも意味がわからなかったんだよね。

【片岡委員】　細かくいってますか。

【会長】　Aのところだけ。まず34ページまで。A、B、Cと分けていきましょう。Aのところでいかがですか。

取り上げている箇所も含めて、ここはわりと定型的に見ているところなので、比較しやすいところだと思いますが、いかがですか。

【片岡委員】　書き方の問題なんですけど、いいですか。30ページから先に、国との比較のグラフがずっとあるんですけれども、国と比較しているのは２個ずつなんだと思うんです。「全体」、「男性」、「女性」、２つずつなんですけど、全部こうやって線がつながっているんですね。これ２つずつで切っていただけないでしょうか。関係ないものと比較していて、すごく見にくいんですけれども、太い線を入れるとか、わかりますか。例えば、１番目が「法律や制度」で、トップの２つが「全体」、藤沢市と内閣府で比較している。次が、「男性」の藤沢市と内閣府を比較している、次が「女性」の藤沢市と内閣府を比較しているわけですけれども、その次の「社会通念・しきたり」にまで全部割合の間をつなぐ線がいっていて、とても見にくいです。ということで、比較の部分みんな、お願いします。

【事務局】　全体と男性を比べたところでという話ですね。

【片岡委員】　２つずつでこういうふうに、キットカットみたいに切ってください。

【会長】　これは私の趣味なんですけれども、多分、見やすさという意味でいうと、内閣府と全体、藤沢市と全体では、同じ太さのコラボになっていますよね。これが一つ、見にくい原因じゃないかと思うんですね。どっちを幅広くするかという問題があるんですけれども。変えると見やすくなるような気がします。２つ同じのって、目があちこち行くので。

【片岡委員】　　ひたすら見にくいですよね、とにかく。

【会長】　　よろしくお願いします。国の調査よりも 13.5 ポイントでしたっけ、「しきたり・社会通念」、ちょっとびっくりしましたけど。こういうのも原因というのはとても難しいですけれども、13 ポイント違うというのは、かなり有意な差だと思いますので、例えば、概要版だと思い切って、これはどうしてでしょうかと問いかけちゃうとか、そういうのを書くと、読んでいるほうも、え、何でとかって思ったり。私の趣味ですから。大体、数字が並んで、グラフが並んでいると、目がだんだん拒否してきちゃうという感じがあるので、何でだろうねと問いかけるのがあってもいいかなという気がします。

Ａについてはこのくらいでいいですか。またあれば適宜戻っていただくということにしましょうか。

次、Ｂ、報告書でいうと 35 ページから 55 ページまで。概要版は３ページの下から５ページまで、ちょっと多いですけれども、ここの部分についてはいかがでしょうか。

【片岡委員】　　54 ページ、55 ページの「家庭における役割分担状況」についてなんですが、この調査というのは、日本のみならず世界的に行われている調査で、厚労省も 2000 年から毎年行っているんですね。国との比較をまず入れてもらいたい。１つ。

もう一つは、できれば、世界との比較も入れてもらいたい。なぜなら、日本の子育てのしにくさの一つの大きな要因というのが、女性の方に育児・家事労働が大きくかかってきていて、男性の育児・家事時間が世界的に極端に短いということが挙げられているわけです。最近のニューヨークタイムズでもそんな記事が出たらしいですけれども、そうした状況がここでわかるようにできたらいいなと思っておりますので、どこまで内閣府のを引っ張ってこれるのか、世界のを引っ張ってこれるのかわかりませんけれども、ちょっとやってみていただけないでしょうか。お願いします。

【会長】　　想像ですけれども、ここまで細かい選択というのはちょっと難しいと思いますけれども、家事時間全体みたいな調査は既に比較しているものがありますので、そういうものを使ったりするといいかなと、厚生労働省もやっていますし、総務省がやっているものもありますし、ちょっと数が多くて申しわけないですけれども、海外と比べるとという話がありますけれども、日本の女性の家事時間が長い理由の一つに、「夫の世話」という家事分野があって、これはいろいろなところで笑いを誘うところなので、一応言っておきます。

ほかはいかがでしょうか。

感想を言うところではないのかもしれないですけれども、私は48ページの「生活費を得る」というところです。20歳未満が「主に夫」というのがこんなに多いというのがすごくびっくりして、これは前回もこうだったんですかね。びっくりしませんか。

【片岡委員】　男女の別で、「主に夫」が20代、男性と女性に分かれていますが。

【会長】　男性の20歳未満。

【片岡委員】　45.5％でした。それで、女性が21.4％でした。

【会長】　母数は何人ぐらいになっていますか、20歳以下。

【片岡委員】　男性がｎが11、女性が14。今回少ないですね。

【会長】　少ないのでこういうふうに出ちゃったかなという感じもするんですけど、結婚している人はいるかもしれませんけれども、おそらくいないだろう中で、こういう意識を持っているというのは、ちょっと私はびっくりかなという感じがしました。

そのほかいかがですか。

【　委員】　これは、実態じゃなくて意識。

【会長】　そうそう。６だから、１人ずれると全然違う数字が出るので。

【片岡委員】　でも、そうしたことをきちんとコメントに触れていただきたいですよね。

【会長】　母数が少ない中であれ、こういう数字が出たのは驚きだと。

ほかいかがでしょうか。

【　委員】　よろしいですか。今、副会長がおっしゃったように、20歳未満の男性の回答は６人ですね。83％というむちゃくちゃ高い数字ですけれども、この人は結婚しておられる人なんですか、それとも独身なんですか。あくまで想像ですけど、未婚かなという感じが。

【事務局】　手元にある集計結果としてはわかります。クロス集計のものとしては、データとしては手元に残してあるので、ここには細か過ぎるので載せる予定もないですけれども、その中でお出しすることはできるような形です。

【　委員】　グラフだけを見ると、非常に不自然さを感じちゃうというのがあって。

【会長】　それと、54ページのところの家庭における役割分担状況、これは実際どうやっているかという話で、その前は意識ですよね。実際やっているのと意識とのクロスというのは、ないんですかねとちょっと思いました。クロスの相手方が難しいので、この数で有意な結果が出るかどうかあれですけど、こういう意識を持っている人が実際やっている人なのか、やっていない人なのか。今の婚姻しているかどうかというのも、おそらく似たような問題意識じゃないかと思いますけれども。

【事務局】　　そのクロスはないかと思います。基本的にはベース部分とのクロスがほとんどでした。

【会長】　　個人的には興味があります。こういうことを思う人が実際やっているのか、ちょっと気になります。質的調査に入りそうな感じでちょっとあれですけれども。

いかがでしょうか。いいですかね。もしまだあれば、追加でということにいたしましょうか。

では、次にＣ、仕事の家庭の両立について、報告書だと 56 ページから 84 ページまで。概要版の６ページから８ページまで。Ｃについては、いかがでしょうか。仕事と家庭の両立について。

ファイルでいただいたのと、この報告書は同じですか。

【事務局】　　ファイルで差し上げた最終版とは一緒のものです。

【会長】　　いかがでしょうか。

【片岡委員】　　68 ページのグラフなんですが、「取得後」、一番左側の 17.1％というのが「復職・復職後の就労に関して問題はなかった」だと思うんですけど、次、水玉模様の部分というのはどこか。これ、「無回答」ということでしょうか。

【事務局】　　「無回答」ですね。

【片岡委員】　　「復職・復職後の就労に関して何らかの不利益をこうむった」人はゼロだったということですか。

【事務局】　　回答としてはなかった、ほとんど無回答です。

【片岡委員】　　はい、ありがとうございます。

【会長】　　多分、グラフの表記の問題だと思うんですけれども、次の 69 ページですけれども、ちょうど真ん中から下３分の１ぐらいのところに、「自分が働かなくても他の家族の収入で十分だったから」というところが、「全体」があって、次に空欄があって、「女性」となっていますよね。これは「男性」がゼロということですか。

【事務局】　　そうです。

【会長】　　そのときはゼロと書かないと、そういうのが何カ所かあって、その上もそうですね。上から４つ目もそうだと思うんですけれども、数字をゼロと入れてください。

【片岡委員】　　同じようなのがいっぱいありますね。

【事務局】　　そうですね。ゼロ％が載っていないのはあるかと思うので、洗い出して追加します。

【会長】　　お願いします。

ほかはいかがですか。ここは育児休業と介護休暇・休業と意識が違うというのは、ちょっと私はびっくりしました。こんな感じなんだというのは。特に若い人かなと思いますけれども。こういう感じですかねという。

【片岡委員】　　わからないんじゃないんでしょうか。

【会長】　　20 歳未満の人は、３人だからね、取得したんでしょう、介護。おじいちゃん、おばあちゃんですかね。逆に、身近に例がありますかね。難しいですね、こういうの。

【宮川委員】　　やっぱり最初の話に戻るんですけれども、こうやって中身を見ていくと、世代別で見ていったときに、３とか６とかという数字だと、ここに意味を見出すのは非常に難しくなってくると思うんですね。なので、こういうような世代間の分析をするんだということを前提に調査を組むとすると、これもやはり次回以降という話になりますけれども、ある程度のｎが、世代別で見たときにもある程度のｎ数が見込めるようなサンプリング、抽出方式にするという考え方もあるのかなと。先ほどからの議論を伺っていて思いました。

【会長】　　本当に難しいのは、統計的に有意な差を出していくということになると、３が 30 でいいかといったら、もっともっと遠いので、あと２つ、ゼロが後ろにつかないとですよね。となると、そもそもできるかという議論にもなっていくかなと思いますので、そのあたりも含めて議論が必要ですね。調査の方法、ないしは予算の問題もあるでしょうし。

【　　委員】　　各世代の回収率というのが大体わかってきていますので、その回収率で回収された結果、同じくらいの世代間母数になるようなサンプリングの仕方というのは、工夫はできるかと思います。

【　　委員】　　20 代未満、ぶれそうですよね、回収率ね。

【宮川委員】　　そうすると、全員に配ってもどうかという話はありますけれども。

【　　委員】　　おそらく今の 3,000 の母数だと足らないんじゃないかなと。そうなってくると、送料やら。

【　　委員】　　内閣府も 5,000、そんなに変わっていない。内閣府は調査員がやっているから回収率は多いと思うんですが。

【　　委員】　　調査の仕方が難しいですね。

【　　委員】　　調査の目的をどこに置くかになっちゃうんですよね。年代ごとのそれを見たいとやれば、そういう目的で設定すべきだし、おっしゃっていただいたように、今、市の人口構成がこうなっているというのに合わせていけば、これでという　　はできますし、そこは調査の設定の問題で、次回、そこをちょっと含めて。

【宮川委員】　　私たちが何を知りたいのかということを最初に決めないと、サンプリングの方法も実は決まらないんだということなのかなと考えました。

【片岡委員】　　もう一つ、20 歳未満に関してですが、18 歳以上なんですよ。だから、少なくもしょうがない。10 代全体をやっているわけではなくて、そもそも母数がほかの５分の１であってもしょうがないということもあるので。

【会長】　　でも、これはやや雑談的な発言になってしまうかもしれないけど、それでもアンケートに答えるというのは、ある意味、意識が高いというのは言い過ぎですけれども、関心を持っている人じゃないかと思うんですね。その中で、私はさっきのが気になって、稼ぐのは夫というのは、ややショックでしたね。

【片岡委員】　　でも、その後の年代変化をごらんになってください。やっぱり現実的に自分が働き出し、いくらもらえるかがわかり、その後、世帯を持つか何かして、やっぱり夫婦共稼ぎじゃないと生きていけないというのが、その後、年代を上がることにわかってくるじゃないですか。

【会長】　　それはそうなんですけど、全体の意識。

【片岡委員】　　政策的にそこで何かできるかという問題になると、18 歳になると義務教育も終わっているし、高校も終わっているし、大学以降でしょう。あるいは、もう働いているか、そういう世代なので、市でできることは少ないかなと思いますし。

【宮川委員】　　逆に、中学、高校で何を刷り込まれているんだ、この人たちはという。（笑）

【片岡委員】　　ものすごい厳しい現実を見てきていると思いますよ。やだなぁ、あんな大変な思いをして働きたくないなぁと思っている人はいっぱいいると思うし、男はやっぱり格好よく稼ぎたいみたいに思っちゃってるのも。

【　　委員】　　今、性別、年齢別でグッと出ている表もあれば、全体があって男女比とか、この意図は何かありますか。例えば、75、76 ページは年代別で出ていますよね。先ほど 20 代の６人しかいない人が充実しているんだというところで、既婚なのか未婚なのかというのを知りたいように私は感じた部分があるんだけど、そこでは年代別に出ていて、ほかは全体で男性、女性別の比率ですよね。この意図は何かあるんですか。

【会長】　　年代別での意識が見れるといいと思われるところは、そういうふうに出しているので、そういうところを見ていただいて、これは年代別は要らないんじゃないのとか、年代別を入れたほうがいいんじゃないのというご意見をこの場ではいただきたいところですので。

【　　委員】　　そもそも、皆さんアンケートを調査するにあたって、かなり細かく年代別に分けて調査対象を選択しているじゃないですか。その部分では、そのことを全体でまとめちゃったやつではわからないわけですよね。

【　　委員】　　国として今回、年代別で出ているところ、国の比較と出ているところは、これは調査会社さんからの提案で来ているのか、こちら事務局から、この部分は年代別で出してくださいと出したのかは、それはどちらですか。

【事務局】　　今の段階では、調査会社から、これでどうだという形の提案です。

【　　委員】　　だから、むしろ、ここでもんで、ここは要らないとか、これも入れてほしいという話をむしろしたほうがいいということですね。了解です。

【　　委員】　　70 代以上は、そこで 80 代の人も 90 代の人も、18 歳以上で年齢の上限はないんですね。18 歳以上にしたのは、国の成人の考え方の問題で、最近の調査で 18 歳以上なのか、昔からずっと 18 歳以上なのか。そうすると、18 歳、19 歳という２歳の間の人だけが一つの代としてそこに入っている、20 歳未満という書き方とちょっと違うと思うんですね。語の厳密な意味で。「未満」だったら、何歳からか下はね。今、片岡委員から、18 歳からだからと聞いて、初めて、あ、そうかと思って、見たら確かに 18 歳ということであって、それは次回のときに、これは 18 歳から 20 代を一つの若い人たちの層としてある程度まとめたほうが正確かなとかもちらっと思いました。２歳分の人だけを取り出すということの意味がちょっとわからないです。

【　　委員】　　サンプルが少ない中でグラフで出すと、ちょっと際立った異様なデータになってしまうので、20 代以下とくるめてしまったほうがいいんじゃないかという意見で、今、そこは悩んでいたところがあったんですが、18 歳、19 歳で特徴的なものが出ているのでおもしろいなとは思うんだけれども、グラフにしたときに、ここに目がいってしまって、20 代以下でくるんでしまったほうが、もしかしていいのかなと。

【　　委員】　　若い人たちの傾向を把握したいんだったら、社会人もあれば大学生もあれば、いろんな人がいるので。

【　　委員】　　18 歳を入れようというのは、専門部会で話をしたんでしたっけ。

【事務局】　　いえ、18 歳以上は前回からも 18 歳以上です。

【片岡委員】　　これ、何十年もやってきていますけれども、毎回そうです。

【会長】　　やっぱり 20 歳未満、20 代、30 代、40 代という分析。

【　　委員】　　なるほど。

【　　委員】　　18 歳、19 歳の見え方だけなんですよね。

【片岡委員】　　でも、例えば、前回の場合は、男性が 20 歳未満で 11、女性が 14 とかって書いてありますから、２桁に乗るか乗らないかは大きいでしょう。人口分布も随分変わってきていますので。

【　　委員】　　それと成人の年齢が 18 歳になってきているということも大きいことだなと思うので、20 歳から下というくくりにしちゃうと、18 歳の成人というのが効かなくなっちゃうかなと思うので、18 歳で成人ということが今、うたわれてきているから、18 歳から 20 歳未満とか、18 歳未満とかという形でやっていかないと、20 歳未満というくくりになっちゃうと、20 代になっちゃうと、ちょっとそこは。

【会長】　　そこはやっぱり分けたほうがいいということですね。

【　　委員】　　分けたほうが僕は、統計的にね。

【　　委員】　　去年がそれでやっているのであれば、今年もその踏襲がいいかなと思いますけれども。

【会長】　　こういう報告書は本当に難しいですね。グラフにすると突出感があるのをどういうふうに表すかなので。そのあたりも含めて、ご意見があれば、これはグラフにしないほうがいいよということがあれば、おっしゃっていただければ。

私なんか、ひたすらおもしろくて見てしまうんだけど。

【　　委員】　　先ほど男女別だけで出ているのと、世代別も入っているのというのがあって、見てみると、確かに 73 ページ、74 ページのグラフは、男性・女性だけになっているということなんですけれども、やはり世代間のばらつきが大きくないなと見てわかるようなものに関しては、丸めても構わないかなと思うんですけれども、そこら辺はどうなんでしょうね。そういう判断で丸められたのか、ちょっと確認をしたいかなと思います。ごらんになられて、例えば、これは世代間の幅が大きいなというものは、私は積極的に、世代別のグラフを入れていったほうがいいかと思います。

【会長】　　ありがとうございます。ほかはいかがですかね。

確かに、「就労による経済的自立が可能な社会」についての意見なんていうのは、いかにもわかりやすいような気がするので、あれですけれども。この３つが可能でしょうね。

いかがですか。そんなところでしょうか。

また戻ることもありということで、次、Ｄの女性活躍推進について、報告書は 85 ページから 88 ページまでですね。概要版は９ページです。いかがでしょうか。この概要版にどのグラフを載せるかというのも重要かと思いますので、そのあたりも含めて、ちょっと両方を見比べていただけるといいと思いますが。

細かいことで、ここだけじゃないですけれども、例えば、86 ページのばらしている図は、性別、年代別、ちょっと性年代別というのをいかにもつづめて資料をつくりました感があるので、多分、昨年のものか何かでできていると思うので、そことあわせて見てください。

【宮川委員】　今、気がついたんですけど、男女別にしている全ての回答の中のものは、性別無回答のものは載っていないのでしょうか。

【事務局】　性別無回答は今、載っていないですね。

【　委員】　1.2%。

【事務局】　1.2%、「その他」の人が２名、「無回答」が 12 名です。

【　委員】　12 プラス２で 14 のデータが全て反映されていないのは、この 14 は、もしかしたら大事な 14 なのかもしれないですよね。

【　委員】　回答の１%が入らなくなるものね。

【会長】　扱いとしては、どう。

【宮川委員】　どうしましょう。

【会長】　今は全然入っていないということですよね。

【事務局】　基本的には、男女別になっているところについては、とっていない状態です。

【会長】　うーん、またさっきの同じ問題がありますよね。それは大分、フラッグの顔が違ってきますよね。「その他」っていうのを入れたのは、今回が初めてですか。

【事務局】　今回が初めてです。

【　委員】　そのときに、その辺の議論をかなりされましたものね。

【事務局】　「その他」を入れるっていうことは議論したんですけれども。

【　委員】　結果の反映をどうするかという問題は考えていない。

【事務局】　グラフでどうするかというところまでは、あまり考えていなかったですね、正直申し上げて。どうしよう。

【事務局】　ちなみにというところですけれども、「その他」のお二方は、クロス集計でわかっていることですけれども、　悩んだことがあるという方だったので、おそらくかどうか。ただ、どうしても２名なので、これをフラッグに反映させても、あまりにも偏るというか、出てくるものとしていうと、数字としての価値は当然あるんですけれども、並べたときにボンと出てくると、ちょっとなじまないようなイメージは感じております。

【会長】　一般的に調査はどうしていますかね。ほかの自治体の人は。

【片岡委員】　　いや、このままだと思いますよ。年齢においても無回答者がいるわけで、全てのもとに対しても該当者がいるわけですから、それは割り切ってそういうふうにしていかないと統計が出せない。つまり、男女別で出してほしいと市から要請されて、コンサルがやったわけですから、それ以上しようがないですね。「その他」「無回答」の人を全ての欄に設けるか。年齢別においても無回答の人っていうのを設けるかという話ですよね。

【会長】　　アンケートのブジュネアンに答える「無回答」と、要するに、自分が何であるかというところの「無回答」「その他」というのは、ちょっと違いますよね。

【片岡委員】　　アンケートの回答の「男性」か「女性」かに合わせて、ほかの結果の「男性」「女性」はなっているんですよ。

【会長】　　もちろんそうですけれども、例えば、調査についても無回答があったとおっしゃったのは、そういう意味ではないんですか。調査の「就労に経済的自立が可能な社会ができるか」とか、そういう無回答は違うということですね。

【片岡委員】　　違う、違う。年齢に関しても「無回答」で年齢がわからない人が 10 人もいるわけです。そういうものっていうのは、どの調査においても、フェイスシートといいますけれども、フェイスシートの部分を書いてこない人がいるわけで、そういうものは必ずどの調査でも含んでいるわけですから。今回、男女別にしたのは、男性と女性で別な傾向があるんでしょうか、ないんでしょうかというのを見るためにやっているわけであって、ですから、傾向を見るためものであるんだから、それに含まれていない人たちはここでは考えなくていいというのがこの調査の切り口であると思います。それは、彼らの存在を無視しているという意味ではなくて、男女のクロスをかけた時点、年齢のクロスをかけた時点で、「その他」、あるいは、「無回答」だった人たちを抜いているということです。

【会長】　　要するに、「男性」「女性」となっているときに、「その他」という欄をもう一つつくる必要はないと考えていいですか。

【片岡委員】　　「その他」と「無回答」もつくらなきゃいけないんですよ。「その他」は２名、「無回答」が 12 人もいるわけです。「その他」の傾向と「無回答」の傾向はまた違うと思うんです。それを出したときに、この調査の最終的な目標というのは、これを市の施策にいかに生かすかというところがポイントですので、それをやることが果たしてどれほど有効か。つまり、どなたかの研究のためだったらまた別だと思うんですけれども、今回の目的は、施策への反映ですので、これは今回は目をつぶっていいんじゃないかと思います。

【会長】　　いかがでしょうか。別にいいですか。

【宮川委員】　　おっしゃることは、おおむね私も賛成です。ただ、今回、調査票に初めて「その他」という性別を入れたということであるとか、それから、回答が２であって、比較的小さかったことなどから、男女別の集計の中に特段「その他」という項目を今回は設けなかったということについては、どこかで報告書の中で言及をしたほうがいいのではないかというふうに思います。それがないと、答えた方は相当勇気を持って回答されたと思うので、それで分析の中で、自分の回答が無視されるというような印象を与えてしまうのは、これはよろしくないかなと考えます。

【事務局】　　そうしましたら、今、調査票の４ページの４番、調査結果を見るうえの注意事項という形で今、載っております。この中で、現状、回答 30 未満の場合というところで　　触れていない場合がある。グラフは載っているけれども、触れていませんよと書いてありますので、ここに１つ、付け加える形になるかと考えますが、いかがでしょうか。

【会長】　　いかがですか。

【片岡委員】　　いいと思います。

【宮川委員】　　もうちょっと丁寧に書いてもいいんじゃないんですかね。今回初めて「その他」と入れましたというようなことも含めて。少し丁寧めに書いてもよろしいのではないかと思います。

【　　委員】　　入れた意味はどうなってくるかということがちょっと疑問にはなります。入れた意味が、みずらなどでも性別は今、「Ｘ」とか「無記入」とかつくるようになってきて、非常にＬＧＢＴのことについては神経を使っているんですが、今回、入れたことはいいとは思うんですが、男にも女にも丸はつけられないということで「Ｘ」的なものの「その他」をつくったのは、そういう意味はある。最初の基本の回答のところで、その人を悩ませなくてもいいという意味ではよかったと思うんですが、それが今度、結果になったときに、何人以下だから反映していません的に、全体には反映しているんですかね。男女別にしていないもの。

【会長】　　全体のデータの中には入っているんですよね。

【　　委員】　　反映している。だから、男女別にところに反映していませんと。

【　　委員】　　言っていることは私、間違っているかもしれませんが、宮川委員がおっしゃるように、来年度から神奈川県の高校入試も男女別を廃止することになりました。男女を書かない。名前と生年月日で願書を出すことになりました。私には中２の娘がいるんですけれども、来年受験なんですね。藤沢市の来年受けるお子さんは、男女を書かない。それも頭の上では男女共同参画という言葉を聞いているかもしれませんけれども、それが

グッと身近になってくる。男女を書かなくていいんだ、男、女を気にせずに自分もこれから進路を進めて、その先を進めるんだという意識の一つの最初のスタートになると思うんですね。ですから、宮川委員がおっしゃるように、２件、もしくは、12 の無回答の方もそれに入るかもしれませんが、それも含めて丁寧に書かれたほうがいいんじゃないかなと思います。

【片岡委員】　　書くところはここでいいんですね。

【　　委員】　　書くところは先ほどおっしゃったように、今回はこれを、男女問わない質問、性別を問わないことを設けて、それが反映されないとおっしゃいましたよね。それも反映させないということも丁寧に書いていただくということに賛成です。今度受験する子たちも、ゆくゆくは 18 歳になって、こういうことに取り組むこともあると思うので、そのときに願書で男女を書かなかった、それはこういうことにつながってくるんだということのきっかけになればなと思います。それは県教委が決めたことは、私はすごくいいことだと思います。

【会長】　　ありがとうございます。今度の出願からですか。

【　　委員】　　2020 年度から。

【片岡委員】　　もう一つ、これは当事者に配慮してなんですけれども、きっとこのお二人の方って、これを回答されるのは結構きつかったと思うんです。なぜなら、圧倒的に、男か女か、男か女かと比較している話が多いからです。夫か妻かとか、働く時間は、育児分担はとか、男のほうが優遇されている、女のほうがとか、自分はどちらでもないと思っている人間にとっては、非常にここはずっと、今まで検討している部分というのは、回答するのが本当につらいところだと思うんですね。多分、彼らが一番自分たちの言いたいことを言えたのが、今回、ＬＧＢＴのところを入れたのでそこだったかと思うんですけれども、だから、余計にその前の部分は出さないほうがいいんじゃないかというか、わざわざ２名の状況をクリアにしちゃうのか、あるいは、「その他」と「性別無回答」を一緒にしたトータルで傾向を出すのか、ちょっと２名だと個人が特定され過ぎると感じるところがあるので。

【　　委員】　　私の言い方がまずかったのかもしれないですけれども、丁寧に書くというのは、このグラフにつけていくという意味ではなくて。

【片岡委員】　　４のところで説明をする。

【　　委員】　　はい。その説明をするときに、こういう理由で、だから、ｎ＝２で少なかったので、統計的に出すことが難しかったので省きましたというような書き方をすると

いう意味で申し上げました。ｎ＝２だと、現実的に、片方の方がもう片方の方の答えが全てわかるんですよね。という状況なので、やはり出すのは望ましくないかと思います。

【会長】　　よろしいでしょうか。全体としては回答してくださったものが反映されているけれども、男女別というところについては、今、おっしゃったような形で記述はありませんというような形にしていただかないと、じゃあ、私たちの回答書は無視されたの？と、誤解だけれども、誤解を招いてはいけないということで、それを含めてちょっと丁寧にお願いします。

【富山委員】　　それに加えてということですけれども、性の多様化も含めてという意味では、もう少し調査の概要とか、そういう部分に本当は入れたほうが、むしろいいことですよね、言葉として。調査事項注意事項に書くということでなくて、調査の意味合いみたいなものはどこにもないですけれども、この一番最初の概要の部分とか、調査の概要の部分とかに今回入れていますというふうに、逆に強調する必要はないことで、それはここにも書いてあるから、いいんですかね。例えば、性の多様化というのを、Ｆを加えていますよね。これは加えましたというのは事実あると思いますけれども、この部分についてと、性別についても聞かないということを入れていますというのは、何も書いていないですけれども、あえて強調する必要はないけど、こういう調査なので入れていますよということは含んでもいいんじゃないか。だから、丁寧というのはどういうことなのかちょっとわからないですけれども、例えば、調査の概要のところに一言書いておく、「その他」等々を含めて、数値のあれを無視しますよというのは、それはそれでいいと思いますけれども。その辺については、あまり強調したくない？　そこまでは強調しない？

【事務局】　　おそらく富山委員がおっしゃっているというのが、新しい設問が出てきている、それはどういった意図で出ているのか。それに関連して、「その他」という選択になっていったというようなところの説明をしたほうがいいんじゃないかというところかと思うんですが。

【富山委員】　　何人いたとか、そういうことじゃなくてね。性の多様化も含めて、そういう部分で調査としては加えましたと。加えたのは事実なんですよね。

【事務局】　　性の多様化という項目を今回は設けましたけれども、それがなかったとしても、「その他」というのは入ってきたと私は思っています。世の中の流れとしてですね。

【富山委員】　　もちろん。いずれもそういう意味で、意図としては、どこまで書くかというのはありますが、表現としては。先ほど宮川さんがおっしゃったのは、そういう意味かなと。単にグラフで、調査票なり一言書くんじゃなくてという。

【　　委員】　　将来は「男女」という書き方なのか、「パートナー」という表現が一番しっくりくるのかとか、そういう議論になってくる時代というんじゃないけど、何かそういう工夫とかがすごく出てくるかなと。その人の自認としては、パートナーとしか言いようがないような関係もあるでしょうし、家庭の中のあり方として、そういう感じはちょっとしますね。

【会長】　　男女共同参画という、今の時代を問われているところだと思いますね。幾つかの市議会、協議会に参加していますけれども、どこでも大体そういうことに直面していて、難しいところに来ているというふうに、行政的に難しいところに来ているかもしれないですけれども、でも、市民の側から見ると、より実質的に、より多様ないろんなニーズも含めて、ニーズだけじゃないですけど、かなえられてくるソジュに向かっているんだと思っていますので、ぜひぜひ、一つ一つの工夫だと思います。それこそ議員さんも含めて、いろいろなところに理解を求めなければいけない場面も含めて出てくると思いますので、よろしくお願いします。

【　　委員】　　男女共同参画って、私もすごくたくさん勉強しているわけじゃないのであれなんですけど、男女が共同に参画するというのは、いろんな立場の中であるわけです。例えば、家庭だとか育児だとか社会の中だとか職場だとか。多分、パートナーを含めても、それぞれの役割の中でどういうふうにやっていくか、社会的な中でどういうふうにできるかとか、そういう部分まで、今までは、男だから何となく働かなきゃいけない、女性は家庭にいますというような、そこからどんどん時代は変わっていますけれども、それの意識をどういうふうに変えていくかがもともとの男女共同参画の意識だと思うので、そこの男女ということが、イコール役割分担の男女みたいなところとか、そういうふうに今後なっていくんじゃないかと思います。

【会長】　　ありがとうございます。

私がしゃべり過ぎたので、法律の文言や何かで　　けれども、みんな推し進めるところなので、また工夫はぜひと思っています。

仕切りが悪くてあれですけれども、次、Ｅですね。社会参画について。報告書は 89 ページから 95 ページまで。概要版は 9 ページから 12 ページまでですね。

【片岡委員】　　先ほど言いかけたことですが、89 ページと 91 ページで前回比較をしているんですが、調査票の項目を微妙に変えたこともあり、あわせてもなかなか比較をしにくいので、せめて似たような項目を前回調査のグラフなんですけれども、今回調査に合わせた順番に変えていただけないでしょうか。

【会長】　　私はここは、いろんなことが書いて、いろんなことを聞きましたけれども、結局、どれにも参加したことがないという数字が変わっていないということは特記していいんじゃないですかねと思っています。感想というか、むしろそういうところを書いていただくといいかなと思います。

いかがでしょうか。

【　　委員】　　ここは「ビーチクリーン」というのを今回入れて、藤沢市に限らずというところで、自治会活動に次いで多かったというのは、藤沢市の特徴的なところだなと思います。こういう項目を入れてよかったなと思います。

【会長】　　よろしいでしょうか。

次、Ｆ、新しいところですけれども、96 ページから 98 ページ、いかがですか。

【　　委員】　　さっきの議論で「その他」を選んだ方を出したいところですが、２人だとわかっちゃうんですよね。もう少し母数、回答数があったら本当は入れたいなと。「その他」に書いた方々を　　。

【　　委員】　　最初のｎの中に入らないんですね。

【会長】　　全体には入っているんですよね。

【　　委員】　　ｎには入っているけれども、男性、女性の中に入っていない。

【　　委員】　　「その他」を選んだ方々のことを知っているか、悩んだかというところではきっと、悩んで回答されただろうなとは思うけど、ここに出すべきかどうか。

【　　委員】　　これを足しても 1,035 ですもんね。

【　　委員】　　５あればという感じですね。

【　　委員】　　そうですね。５あれば、２だときついなと。

【　　委員】　　14 人の方は入っていない。「悩んだことがあるか」という質問に入っていない。

【　　委員】　　「その他」を設けたのは、ある意味、ここの質問のために設けたところもあるんですけれども、何かしら反映するか、グラフに入れなくても打ち出せないものかなと。

【　　委員】　　Ｆの（１）とか、男女比較がそもそも必要なのかなと。逆に、年齢別とかそっちのほうが知りたいよね。

【　　委員】　　確かにそうですね。

【　　委員】　　男女別、パッと見て、そんなには変わらないじゃないですか。多少は変わるでしょうけど。認知度は年代別を知りたい。

【　　委員】　　私もそう思いました。

【　　委員】　　そうしたら、全部入れられるんですね。

【会長】　　そっか、逆にここは男女別を出さずに年代別で比較してみる。

【　　委員】　　年代のみでいいんじゃないかな。そっちのほうがよくないかなと思う。

【事務局】　　傾向としても、そこまで見る限り、大きな男女差があるという感じでもないので、年代別に見たほうが、　　という形では表現ができる。

【　　委員】　　そうですね。

【会長】　　（４）はどうですか。これは全部ばらしているんですね。これも年代別にするとどうなるんですかね。

【　　委員】　　最後の性の多様性の部分が若干、女性のほうが意識を理解されているという差が大きい以外は、あまりここでもわからないですね。

【会長】　　ちょっとこれ、年代別にしたグラフをつくっていただいて、委員の皆さんの。

【事務局】　　（１）、（２）、（３）。

【会長】　　（４）も。

【事務局】　　（４）はどうだろう、ちょっと確認してみます。

【会長】　　ちょっと難しいか。

【宮川委員】　　ちょっと個票の話になりがちなので、私たちが聞けるかどうかわからないですが、ｎ＝２の「その他」と書かれた方たちが、このＦの項目にどのように回答されているのかというのは、私たちは知ることは可能ですか。

【事務局】　　クロス集計のデータとしていただいておりますので、そちらを確認することはできます。

【宮川委員】　　はい。ぜひ知りたいと思います。

【　　委員】　　その場合、「無回答」の 12 人の中に、「その他」と同じ質で「無回答」というのがある可能性があるじゃないですか。私はそう思います。

【　　委員】　　「その他」にもしなかったという方ですよね。

【　　委員】　　それは、その人の気持ちで「無回答」にしちゃったか、「その他」のところに自分を置いたかはわからないけれども、そうすると、トータル 1,149 に合わせて、まず基本は拾うというふうにして、ここのＦについて。

【宮川委員】　　これは報告書に載せてほしいとか、そういうことではなくて？

【　　委員】　　そういうことじゃなく。

【宮川委員】　　確実に当事者だとわかっている方が、実際に（４）の中で、どんなふうにしてほしいとお考えになっているかとか、特に（３）の問題について、どのように考えているのかというのは知りたいなと。委員として知っておきたいと考えた次第です。

【会長】　　ちょっと来年度、私たちの課題としていきましょうか。報告書にそれを載せるということではなく。

【事務局】　　来年度、ちょっと先の話になりますので、この点については、記名のアンケートといったものはないので、数字として取り出しができますので、皆様にメールで参考という形で送らせていただければと思います。

【会長】　　ありがとうございます。

次、Ｇ、99 ページから 153 ページまで、この部分はいかがでしょうか、概要版 19 ページまで含めて。

【　　委員】　　20 ページが白になっていて、一番最後、21 ページがついています。

【事務局】　　概要ですね。これは詰まってくるはずです。

【　　委員】　　余白としてもたれているだけですか。

【事務局】　　余白ではないです。

【　　委員】　　わかりました。

【事務局】　　いただいたものをそのまま出力してしまったので、詰められる部分が幾つかあったと思います。

【会長】　　いかがでしょうか。メディア、夫婦間暴力、デートＤＶ……、ちゃんと検討していないので印象的なことを言ってはいけないですけれども、全体的にグラフが多過ぎます。もうちょっとまとめてもいいかなと。大切な資料であることは間違いないんですけれども、そういう気がして、どれをと言われるとちょっと困りますけれども、ページをめくっているうちに時間が過ぎてしまう感じが、メリハリを。

【　　委員】　　性別と年齢別とかを入れていますからね。

【会長】　　本当に年齢別が必要なのか、必要なものもあると思うので、あまり差が出てきていないものについては載せなくても。

【宮川委員】　　これは、（４）のセクシャル・ハラスメント、パワーハラスメントの一連の質問というのは、128 ページにある前回調査の結果とどのように絡めればいいんでしょうかね。これは、前回は「セクハラを受けた経験がありますか」「パワハラを受けた経験がありますか」としか聞いていないということですか。

【事務局】　　質問としては、ここは同じ設問が出ております。同じグラフをそこにまたずっと載せていくのは、スペース的にも難しかったのかなと思います。その中で、受けたことがあるというのが幾つか列挙されていますけれども、ある程度、年代別の回答があったりというのをピックアップをしております。

【宮川委員】　　そうしたら、この 128 ページのグラフに相当する今回調査の結果サマリーのグラフもあると、前回と比べて今回がどうだったのかというのがわかりやすいかと思います。

【事務局】　　同じ形の今回のデータ。

【宮川委員】　　はい。それは 113 ページから 127 ページのグラフをサマリーした形になるということですよね。

【事務局】　　そうです。

【会長】　　いかがでしょうか。もうちょっと意見が欲しいですね。

【片岡委員】　　さまざまなセクハラ部分なんですけれども、全てにおいて、男女にして、年代別にする必要があるんでしょうか。

【会長】　　これだけわかれば十分。

【片岡委員】　　男女で、そこまできめ細やかな施策をこれから推進するんだという体制と覚悟ができていれば別なんですけれども、ここでいくつの人が、宴会でお酌やデュエットを強要されたかされないかというのがわかったところで、そこだけターゲットに何かできるわけではないと思うんですよ。ましてや、そんなに激しく、女性と男性の差は出ますけれども、年代別には、例えばこっちが暴力した側で、怒鳴ったり何だりしたことがある 70 代以上の人がいる一方で、やられたことがある 20 代がいるとか、そういうのはあるかもしれませんけれども、あんまり大きく出ないんじゃないかなと思うんですけど。

【会長】　　もうちょっと精査かな。選ぶのを。

【宮川委員】　　私は、こういうグラフはあったほうがよいかなと思っています。というのは、これをずっと最初から最後まで眺めるとしたら、また同じの、同じのとなるんですけれども、ここに載らないと失われていくグラフだと考えると、じゃあ、何年か後にもっと経年変化で串刺しして見ていきたいと考えたりする場合には、こういった報告書に載っているものは、とても大事になってくるかなと思います。私自身が研究者なので、そういう視点に偏りがちかもしれませんけれども、いろんなところからデータを集めていて比較する資料というときには、なかなか個票で、自分で分析ということが難しい場合には、こういった報告書がよりどころになるケースもありますので、あってもいいかな。

【会長】　　概要版にはシンプルにやっていますものね。

【宮川委員】　　はい、概要版はシンプルにしていただいて構わないと思います。

【片岡委員】　　宮川先生のお気持ちはわかります、お仕事柄。しかし、ここはお仕事ではありませんので、あくまでも市の施策のための調査ですので、今回はわかりやすい方向で書いていただけないでしょうかと思うのは、前回の、これは５年前のですが、５年前のほうがわかりやすくなっていると思うので、そちらを参考につくっていただけないでしょうか。ただ単に年代別じゃなくて、男女だけになっています。それと、経年変化のことですが、そこまでちゃんと経年変化をたどってはいないと思います。これまで何十年もやってきている調査ですが、おそらく 20 年ぐらいはやっていますよね。これは第何回目でしたっけ。そうですね、25 年ぐらいとかね。

【事務局】　　５年ごとにやっています。

【片岡委員】　　５年ごとですからね。せいぜい比べても前回なんです。時代が大きく変わり過ぎているので、質問項目も変わりますし、今だからこういうふうにセクハラとか出てきていますけれども、一番最初のころはなかったですしというのがあるので、経年変化も、せいぜい前回と今回ということで。

【会長】　　ただ、ＤＶやセクハラ関係のは、特にＤＶは内閣府の調査と一緒ですよね。私たちこの項目を精査したときも、書きたい気持ちがすごくあったんだけれども、すごく我慢したところなんですね。なので、ここのところに関して言えば、結構経年変化は見れると思うんですね。全部やるかどうかは別として、例えば、また研究者とか言っちゃうかもしれないけど、モラルハラスメントみたいな身体暴力以外の暴力についての意識がどうか変わっているかというのが、もしかして読み取れるのであれば、そこはピックアップしてもいいのではないかという気がします。それは今回の調査ではなく、前回、前々回との比較の中においてということで、全く一緒だったらあまりしなくてもいいかなとは思いますが。なので、全体としては、片岡さんのおっしゃるほうがちょっと近いかなと。どこかピックアップして、報告書としてはもう少しコンパクト、この部分は。ほかの部分と比べて、ここがものすごく重いですよね、ページ数という意味でいっても。

【　　委員】　　項目が多いゆえに、どうしてもそうなってしまっていますよね。

【　　委員】　　今の話で、ちょっとこのところだけページ数が多いので、前回のときのようなまとめ方をしてもらったほうが、一覧でパッと見れる利点があるかなと思いますので、そこら辺でちょっと精査していただけるといいかなと思います。

【片岡委員】　　内閣府との比較というのが入っていないですよね。

【　　委員】　　145 ページがそうかな。

【片岡委員】　　145 ページ、ここに持ってこないで後ろに持ってきている。

【　　委員】　　参考という位置づけでここに載っていますね。

【　　委員】　　いわゆる心理的攻撃というのがモラハラですね。モラハラについても、ちゃんと聞いているんだ。

【片岡委員】　　これがまた細かく入っていますね。

【会長】　　比較をするんだったら、そういう形で比較しないと、データが並んでいるだけではちょっと飽きちゃうので。

【宮川委員】　　この 145 ページも、内閣府の調査でこういうふうなサマリーで出ていますということであれば、前回の調査結果もこれと同じ形で項目がそろうのであれば、したほうがいいと思いますし、今回の調査結果に関しても、サマリーとしてつける。つまり、この内閣府の調査と同じ形式で今回の調査、前回の調査、内閣府の調査結果という３つが並ぶとわかりやすいかと思います。

【片岡委員】　　前回のこれを見ますと、国の調査で、145 ページに出ているようなアバウトなものではなくて、もっと細かいものが比較で出ております。「平手で打つ」「足で蹴る」「体を傷つける可能性のあるもので殴る」「殴るふりをして脅す」「刃物などを突きつけて脅す」「嫌がっているのに犠牲的な行為を強要する」「見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「何を言っても長時間無視し続ける」「交遊関係や電話を細かく監視する」「誰のおかげで生活できているのか」「甲斐性なしと言う」「大声でどなる」。

【宮川委員】　　じゃあ、項目は変わっているんですね。

【片岡委員】　　今回我々のやったのは、それより細かくなっていますよね。参考で、ここのページの中に入れて国のものと比較するということしかできないかと思うんですけれども。随分変わってますよね。

【会長】　　「医師の治療が必要となるほどの暴力」「命の危険を感じるほどの暴力」。これは難しいね。いずれにしても、145 ページにこれが入っているというのは、場所を含めて、その前のところに国の調査が入っていますよね。それをうまく重ねていかないと、こういうふうに前をくくってということになってしまうので。ポイントは、そこから何を読み取るかだと思いますので。

　あと、施策的に言うと、相談先とかカードの認知度はどうですか、そのあたりのところは。相談先とかは前回も聞いていますよね。

【事務局】　　相談先は聞いているかと思います。

【会長】　　写真を出していたわけですから。そういうのこそ　　聞きたい感じがちょっとしますので、加工していただければいいと思います。

ここは入れ換えも含めてお願いいたします。よろしいでしょうか。

【事務局】　　入れ換えというのは、一つ前のたくさんあるところを？

【会長】　　そこをもう少し整理して、何か入れるところをピックアップしてという方向で。国との比較という意味では、比較する対象がそばに表というんでしょうか、グラフを置かないと。例えば、デートＤＶについてもあんな角度で聞いていたりするので、前後関係は難しいですけれども、工夫をしていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。時計がだんだん気になってくる感じですけれども、Ｈ、最後、男女共同参画に必要な施策についてということで、「情報誌を知らない」89.6％、ドキッという感じですけど、いかがですか。

【　　委員】　　男女差はあまりない。

【会長】　　男女差はあまりなく「知らない」。

【片岡委員】　　これは直接、調査票というよりもご提案なんですけれども、ここにあるように、「かがやけ地球」なんですけれども、ずっと体裁も変わっていなくて、これだけ読んでいる人が少ない状況の中で、もうちょっとベターな情報発信の方法をやはり探っていく時期じゃないか。多くの人がウェブサイトをかなり使われるようになっていて、若い人は圧倒的に、若い人だけじゃなくて、現役世代は圧倒的にそちらでしょうし、公共誌を使って印刷代もかかるでしょうし、その分もうちょっといいコンテンツをつくるなり、あるいは、人がいそうなところで何かパンフレット的なものとか、あるいは、男女共同参画週間みたいなときにちょっと格好いいステッカーみたいな感じで、男女共同参画をもう少しうまくアピールする方法を皆さんから募集するとか、何か別の方法で広報費を使えないだろうかと感じました。

【会長】　　これからのご提案ということで、これもアンケートをとった結果でのご提案なので、真摯に受けとめてということだと思います。

いかがですか。最後のところまでようやくたどり着きましたが。これに調査票をつけて冊子にするということですよね。

いかがでしょうか。時計も気になってきているところですけれども、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅ、Ｆ、Ｇ、Ｈまで見てきましたけれども、言い忘れていることとかがあれば、Ａに戻ってでもいかがでしょうか。

【　　委員】　　先ほどの広報誌なんですが、青少年指導員協議会では、成人式のお手伝いを毎年させていただいています。先日、結果が出まして、新成人のうち66％の出席率があって、2,700人ほどお見えになっています。ですので、こういうときに男女共同参画の啓発として、先ほどおっしゃったこれを、市の職員さんもたくさん応援に来られて、私どもも35人ほど協議会として応援に出ます。ですので、これを積極的に配布なさってはいかがでしょうか。特に、藤沢市は財政難ですので、記念品は一切ないんですね。皆さん来て手ぶらで帰るという感じなので、手ぶらではなくお土産つきということで、広報誌とか市のほうでつくっていただいて、市民会館の中に見えるような感じで絡めていただくとか、あとは毎年、外に大きいテレビが出るんですね。中でやっていることを映し出すように、そういうところで男女参画のＣＭというか広告を、こんなことやっていますとか、こういうのをつくっていますというのをやれば、結構、親御さんも多いんです。お子さんの記念を撮影したりとか、保護者の方が多かったりするので。

【片岡委員】　　外までね。

【　　委員】　　そうなんです。外にあふれているので、今年は特に保護者の方が多く見受けられました。ご両親そろってお見えになったりとか。ですので、そういうところでそういうのを利用したらどうかなというのが、このたび初めて委員になって、そういうお手伝いに出て思いました。

【　　委員】　　いいことですね。

【宮川委員】　　２点あります。１つは、最後の158ページの自由回答のご意見ですよね。こんなものが来ましたと。ざっくり傾向を見てとれるんですが、その他のその他には一体どんな意見が入っていたのかということを知りたいです。

【事務局】　　こちらは、まだ私どものほうにもまとめたものが来ていない状態なので、業者に出させます。その上で、こういう意見がありましたということは、もちろん、皆様に周知させていただきたいと考えています。

【宮川委員】　　もう一点が、この報告書というのは、ウェブからダウンロード可能になるんでしょうか。

【事務局】　　はい、ウェブにも公開されるものになります。

【宮川委員】　　わかりました。ありがとうございます。

【会長】　　いかがでしょうか。まだもしあれば、メール等で、ないしは電話でもお伝えいただければと思います。

—— 了 ——